

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立羽田小学校

I 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・四則計算は朝の帯や放課後補習教室、授業の導入時など、短い時間での繰り返し学習をし、定着が見られてきた。
- ・図形の問題に関しては、知識面、技術面ともに定着が見られている。

(2) 課題

- ・問題後半でもある表の読み取りに関して、未記入の児童が目立つ。多くの情報を読み取る力とともに、時間配分にも課題がある。
- ・どの領域での、大きく課題がある。特に、基礎基本となる数と計算の部分では、どの学年でもわり算に関係する問題が課題である。
- ・学年が上がるにつれて、達成率が下がっている。特に、記述の問題については、研著である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	▽		
第5学年	▽	▽ (第4学年時)	
第6学年	▽	▽ (第5学年時)	・目標値と同等程度である。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・たし算、引き算、かけ算、わり算の基礎的な計算はできている。 ・位が大きくなる四則計算には課題が見られる。	・棒グラフ等のグラフへの変換に課題が見られる。 ・□を使って乗法の式に表わすことや式にあった文章を選ぶことに課題がある。 ・円や三角形の作図の定着が見られる。	・おはじきや教具用時計など具体物を活用した授業を展開し、学習に意欲的に取り組んでいる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基礎・基本の内容の定着が弱い。単元の系統を意識し、前時や前年度までの振り返りが必要である。 ・小数と分数の数のしくみに関しては、身に付いている。一方で、小数、分数のかけ算、わり算の定着には課題がある。	・文章題の読み取りに課題がある。無回答率も高い。必要な要素を見付け、立式や整理する力に課題がある。	・前学年までの学習の定着が弱く、単元のつながりへ意識が希薄である。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・演算決定の根拠となる数値や言葉に印をつけ、全体で反復学習を行う機会を設ける。 ・検算の仕方を同時に教え、日ごろの演習問題の際から確かめをすることを徹底し、自分自身で間違いに気付けるようにする。	・日常生活の中のを問題と紐づけ、イメージしやすいものにし、授業を行っていく。 ・自分の考えを説明するための手本となる話型を示し、ペア学習やグループ学習の時間を設け、自分の考えを伝える時間を設ける。	・具体物や半具体物を用いて操作しながら学習を進めることで、主体的に取り組む姿勢を育てる。 ・フラッシュカードなどを活用し、ゲーム感覚で楽しみながら繰り返し学習できるようにする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童の実態や例年の習熟の度合いをもとに、授業の中で基礎的な問題演習や応用などの課題を繰り返し取り組み、定着を図る。 ・朝の帯の時間や放課後補習教室を用いて、位が大きい四則計算の反復練習を行い、定着を図っていく。	・小数や分数などの相対的な大きさを捉える単元では、図や具体物を用いて授業を行い、理解を深める。 ・ペア学習やグループ学習の時間を設け、自分の考え相手に分かりやすく伝える時間を設ける。	・おはじきや教具用時計など具体物を活用した授業を展開し、学習に意欲的に取り組んでいる。 ・児童が主体的に学習に臨めるよう、児童の言葉を用いた、めあて作りやまとめの作成を行う。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基礎・基本の定着のため、授業の終末の演習の時間を確実に設け、定着を図る。 ・小数、分数のかけ算、わり算を中心に、朝の帯の時間や放課後補習教室を用いて、反復練習を行い、定着を図っていく。	・文章題では、立式に必要な情報、数字や演算決定となる言葉を繰り返し指導し読み取れるようにする。また、あえて情報過多な問題を提示し、必要な情報を選び取る力を育てる。 ・話し合いの時間を設け、自分の考えや相手の考えをまとめ、課題に対して結論付ける機会を設ける。	・学習のめあてを明確にして、児童が自分がめあてを達成したか分かるようにする。まとめの部分を自身の言葉で書くようにし、学習の振り返りを行う。